

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070700055		
法人名	社会福祉法人 睦会		
事業所名	グループホーム「ホットファミリーやすらぎ」		
所在地	〒382-0011長野県須坂市大字日滝字寺窪2887 - 1		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・併設の保育園との交流、小、中学校との交流、実習生受け入れ、ボランティア交流など、地域の幅広い方々との交流をおこなっている。 ・防災について、日頃から“いざ”という時に備えて、職員の防災意識を高めるため、定期的に避難訓練の実施を行っている。防火対策として、スプリンクラーの設置、室内散水栓、緊急通報装置、火災報知機等、設備完備。その他、勤務職員は毎朝、防災マニュアルを唱和し、火災時の役割分担を確認している。夜勤者は、勤務前に火災発生時の対応マニュアルを読む事を徹底している。年1回、地域住民の協力の下、大規模な防災訓練を実施している。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070700055&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設事業所である総合福祉施設「須坂やすらぎの園」の各種の機能を有機的に活用(災害時の協力・各種催し物への参加・夜間の緊急時の応援体制・各種委員会など)しながら、利用者の暮らしを支えている。併設している「やすらぎ保育園」の園児との多くの交流は利用者の心を和ますと共に、利用者自身が未来を担う子供たちを支える力になっていることを実感でき、「ここで暮らしても良いのだ。」ということを確認できる機会ともなっている。産休・育休・保育支援、研修の機会、職能評価の人事考課、職員の思いや意向を聞く個別面談会など、職員の働く環境への温かい配慮がある。総合防災訓練や夜勤前の緊急時対応シュミレーションなどの各種の手厚い災害対策は、利用者の掛け替えのない命を守り、さらには、ご家族に安心を提供していくという事業所のゆるぎない基本姿勢がある。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年11月5日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に法人の理念とグループホームの理念の唱和を行っている。	事業所独自の理念を玄関の入り口に掲げ、法人の理念と併せて毎朝唱和し、職員への共有化を図っている。事業所の提供しているサービスが理念に適っているか確認しながら、理念を軸にして日々のケアを展開している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事を通して保育園児、中学校と交流。個人ボランティアの方が月に1度コカリナ演奏に来てくださる。一方では、外出、外食、買い物等、地域に行く機会を作っている。	地域の子供会育成会との交流、多くのボランティア・実習生の受け入れ、中学生行事への参加、地区の獅子舞の来所など、日頃から地域の中に溶け込み、親しいつきあいをしている。併設事業所の知名度を活用し、グループホーム独自の交流に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の活動として、地域住民に、家族介護者教室、いきいきリハビリ等、取り組みを行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催時、利用者や職員の雰囲気等を見て頂き、日常の様子を報告し、意見交換を行っている。会議内容は職員にも伝え、運営に反映させている。	会議は2か月に1度開催され、事業所の各種の活動等が透明性を持って報告されている。委員からの発言も多くあり、双方向的な会議となっている。	会議は、事業所や福祉関係者とは異なる地域の方からの目で見てもらうことや会議の継続性を考慮することも大切であるので、3～4年任期の地域の方の委員参加を期待します。又会議内容を、出席されている代表のほかのご家族へも報告されることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地区代表者、市の高齢者福祉課担当者が運営推進のメンバーに含まれており、連携を行っている。	運営推進会議に市の担当者が参加し、現状の理解を得ていると共に、半年に1度、行政との打ち合わせ会議があるなど、市との密接な連携が出来ている。事業所の課題等の相談も積極的に行っている。	

外部評価結果(グループホーム「ホットファミリーやすらぎ」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置している。やすらぎ全体で“拘束しない”と言う共通認識をもち、グループホームの中でも起こりえるリスクを防止するよう、ケアに努めており、身体拘束は行っていない。	法人全体の身体拘束委員会があり、グループホーム職員も委員として参加し、拘束しないケアについて検討すると共に、ミーティング等で職員への意識の共有化を図っている。グループホーム独自の玄関は施錠されているが、併設事業所も含めて、玄関を1ヵ所に共有化しており業者や面会者等の対応を事務室で統一化し、業務の効率化を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチブロックを含む虐待についての理解を深め人権尊重を大切にしよう努めている。声掛けの仕方については、細心の注意を払っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に、この制度を活用している方がいたため、各関係者と連携を図り支援を行った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込時にグループホームの説明を行い、入居時に利用約款、重要事項説明書を基に説明し、理解、同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望ポストの設置。第3者委員のメンバーが運営推進委員である。家族が、気軽に意見を言いやすいような関係作りを心掛けている。家族からの要望や、意見については、ミーティングで話し合い、運営に反映させている。	意見・要望ポストの設置、法人全体での家族会、面会時や月始めの近況報告、季節行事へのご家族の招待など、ご家族の意見等の言える多くの機会を設けている。又、提案された意見等はミーティングで話し合い、速やかに対応している。	意見・要望ポストの有効活用として、テーマを決めて意見を求めるアンケート形式など、ご家族が気軽に意見や思いを言えるさらなる工夫を期待したい。又、季節行事へのご家族の参加の機会を活用するなど事業所独自の家族会を開催されることを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼後、ミーティングを密に行い、話し合いの場を設けている。不規則勤務のため、不在職員には、連絡ノートを活用し、理解が深まるように説明している。連絡ノートは、意見、提案等も記入できるようにしている。	ミーティング時、意見や提案を記入できる連絡ノート、年2回の個別面談会など職員の思いや意見を提示できる機会を設けている。研修参加への積極的促進、人事考課、産休・育休・保育への支援など、職員のやりがいや向上心を引き出す労働環境への多くの配慮がなされている。	

外部評価結果(グループホーム「ホットファミリーやすらぎ」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課者制度設置。個々の職員が、やりがいと向上心を持って仕事に取り組めるよう努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修会、資格取得の機会を設けている。事業所においてもヘルパー2級養成講座を開設している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北信地区のグループホームネットワークに2カ月に1度参加し、交流及び、情報交換等、取り組んでいる。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>新規入居時、体験入居期間を設けている。本人、家族から、情報収集に努め、アセスメントを行い、ケアプランに反映させている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会の際、日ごろの様子を伝え、家族の要望も伺い、意に添うように努めている。月始めには、必ず近況を報告している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所申込の際、話を伺いニーズに対して、必要なサービスの情報を伝える等、対応している。</p>		

外部評価結果(グループホーム「ホットファミリーやすらぎ」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、多くの会話を持つように努めている。また、活動の際は、教えたり、教わったりしながら楽しく生活する中で、互いに暮らしを共有している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との関わりがうすれないよう、誕生会や季節の行事には家族を招き、一緒に過ごせるよう工夫をしたり、外出、外泊、面会の機会を設けていただけるように、働きかけを行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人等、馴染みの人が気軽にいつでも面会ができ、希望があれば、宿泊をして一緒に過ごすことが出来る。	これまで一緒にお茶を飲んでいた近所の方が訪ねて来たり、馴染みの美容院や友人の家に出掛けるなど、これまでの地域での関わりを続けられるよう取り組んでいる。電話の取りつぎや定期的に来る手紙などには、事業所からの支援も行い、関係が継続出来るよう対応している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、利用者同士の関係の理解を深めている。その為、孤立しないようにフォローしたり、トラブルが起こらないようにさりげなくフォローし、良好な関係が築けるように努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、経過状況を各関係者と連携を取りながら、利用者、家族が安心、安定するまで、フォローを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から意向を聞き、ケアプランに意向を盛り込んでいる。意思疎通が困難な方に対しては、家族の意見、意向を伺い、「利用者主体」を基本理念に職員間で話し合い、ケアに努めている。	楽しみ・趣味・生きがいなどを利用者やご家族から聞き取り、日々の暮らしの中に取り入れ、力の発揮や楽しみに繋げるよう努めている。何処に行きたいか、何を食べたいかなど状況に応じて個々の希望や思いを伺うよう、多くの会話を持って、利用者と一緒に暮らしを共有できるよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホーム「ホットファミリーやすらぎ」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、本人とご家族、ケアマネジャーが面談を行い情報収集に努めている。入居後、その情報を基にスタッフはコミュニケーションを図り、更に情報収集を行い、ケアに役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、活動内容の記録、週1回バイタル測定等活用し、スタッフ間で情報を共有し、一人ひとりの状況把握に努めている。心身の状況等に変化が生じた場合は、アセスメントをし、その人に添った生活が送れるように援助している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「その人らしい生活を送れるよう」本人、家族から意向を伺い、介護計画を作成している。モニタリングについては、課題とケアのあり方について、現状に即しているかケアマネ、看護師、介護士間で担当者会議をし、プランに反映している。	課題分析はセンター方式を活用した様式を用いて、利用者やご家族から思いや意向を伺い、利用者の担当者が中心となってケアプランの原案を作成し、カンファレンスを経て介護計画を作成している。月に1度は実施状況を把握し、3か月に1度、モニタリング・評価により見直しを行っている。心身の状況の変化に応じた見直しも行われている。その人らしい生活を送れるような介護計画を作成することを柱にしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、活動内容の記録、職員連絡ノート等にて情報の共有化を行い、状況に応じてミーティング時、話し合い、ケアプランに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設型の利点を活かし、利用者の状況に応じて、柔軟な対応を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、馴染みの美容室、友達の家等、安全面に配慮しながら、一人ひとりの意向に沿った支援を行っている。		

外部評価結果(グループホーム「ホットファミリーやすらぎ」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、個々の希望となっている。受診は家族に対応して頂くが、やむを得ない場合は職員が対応している。受診時、主治医に情報提供書を作成し渡しており、受診後、主治医から返書を頂く等、医師と連携を図っている。</p>	<p>利用者のご家族の希望するかかりつけ医となっており、受診等の付き添いはご家族が行い、止むを得ない場合は職員が代行している。職員の中に歯科衛生士が居るので口腔ケアへの配慮があり、医療連携体制やかかりつけ医との連携も密であるので医療面での安心を得ている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師を配置。利用者の健康状態の把握に努め、何かあれば即、対応できる体制である。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医療機関がある。入院した場合は、その病院の連携室担当者や連携を図り、早期退院できるように努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に、重度化した場合や、ターミナルケアについて併設事業所との連携と合わせ説明を行っている。ターミナルに向けて現段階での対応可能範囲についても、職員間で話し合いを行っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針があり、契約時に説明し、ご家族等の理解を得ている。終末期の対応は医療面での協力体制が必要であり、かかりつけ医のターミナルに対する姿勢により変わってくるが、併設事業所との有機的連携も踏まえて、住み慣れた場所で安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアルに沿って対応できるよう、職員間で確認をしている。応急処置の仕方について、定期的に研修を行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年1回地域住民、消防署の協力の下、法人全体で大規模な防災訓練を行っている。独自に利用者やスタッフが定期的に避難訓練を実施。毎朝、防災マニュアル唱和後、火災発生時の役割分担の確認。夜勤者は勤務前、火災発生時対応マニュアルを読み、確認している。非常食は施設全体で、数日分用意してある。</p>	<p>併設事業所全体での年1回の総合防災訓練(地域住民・消防署協力)、月1回の各種防災訓練(点検・通報)、日々の防災マニュアル唱和など、災害時への対応が何時でも出来るよう訓練している。スプリンクラー・自動火災通報装置・非常時の備蓄など防災設備は十分に整っている。夜間も併設事業所や地域住民の協力を得られる体制となっている。</p>	

外部評価結果(グループホーム「ホットファミリーやすらぎ」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権尊重を念頭に、個々のプライバシーに配慮したケアを行っている。入浴時、排泄時は特に、本人の気持ちを大切にしているため、状況に応じて、同性介護等、柔軟に対応している。入室する時は、本人の許可を得て、入室するように心掛けている。	「人権尊重」を理念に掲げ、入浴や排泄時ケアのプライバシーへの配慮、入室時の利用者の了解確認、個人の書類の保管庫への収納など介護現場での理念の実践が行われている。日々の言動については職員同士で注意し合ったり、接遇研修を行うなど、常に適切なサービスとなるよう努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何が食べたいか、何処へ行きたいか等、状況に応じて個々の希望や、思いなど伺っている。食事時、おやつ時、散歩時等の機会を捉えて気軽に希望を表し、自己決定ができるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望に応じて施行している。本人の行きたい時に、仏壇へお参りに行ったり、利用者同士で、喫茶に出掛けたり、個々のペースに合わせ、ゆとりを持って対応出来るように努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みに応じて、本人に選んで頂いている。洋服、髪型、化粧品、アクセサリ等、その人らしさを大切にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の栄養士が作成した献立を元に、グループホーム独自にアレンジしている。利用者と職員と一緒に、準備や片付けに携わっており、月に1度、一緒に食事をする機会を設けている。食器類の一部は本人の使い慣れた物を使用している。	朝・昼食は食材の調達から調理・片付けまで利用者と職員が一緒になって行い、夕食は併設事業所で調理された物を盛り付けている。献立は併設事業所の栄養士が作成するが、グループホーム独自のアレンジを加えている。おやき・おはぎ・焼き芋・流しソーメンなど季節感のある食事やおやつ作りをして、食事を楽しめるような取り組みもしている。昼食は費用負担等の関係で検食者のみが一緒に食するが、朝・夕食、おやつは会話を楽しみながら一緒に食卓を囲んでいることを伺った。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調、状態に合わせて支援している。食事量や、水分摂取量が少ない等、普段と異なる状態時には、チェック表を活用し、好みの嗜好品等に対応するなど、工夫している。		

外部評価結果(グループホーム「ホットファミリーやすらぎ」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをするように声掛けと、個々の力に応じた口腔ケアの援助をして、習慣づけを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、すべて個別対応を行い、失禁を最小限に抑える努力をしている。リハビリパンツ等は、個々の状態や、昼、夜等の時間に応じた物を使用し、自立支援に力を入れている。	トイレを利用する排泄を介護の基本とし、排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けをし、排泄に関しての羞恥心や不安を軽減する配慮をしながら、排泄の自立への支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、食物繊維を取り入れた食事、便秘体操、腹部マッサージ等、排便に繋がるよう取り組んでいる。それでも改善されない場合は、主治医、家族と相談の上、薬等を処方して頂く。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	殆どの利用者が、毎日入浴され、体調不良等で、入浴できない時は、温かいタオルで体を拭いている。入浴は夕食前の夕方、利用者は、その時間内で入りたい時間を選んで頂いている。季節に応じて、楽しめるように行事湯を行う等、工夫している。	入浴は、1人週4～7回、1日5～6人の方が利用している。希望により、何時でも入浴できるが、午後3時半から6時頃の時間帯での入浴となっている。菖蒲湯・ゆず湯などの行事湯も取り入れ、季節を味わいながら入浴の出来る工夫もしている。ボイラの故障や改修作業の際は、併設事業所の浴室を利用して、入浴に支障のないよう対応していることを伺った。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況や、生活習慣に合わせ、適宜、休息できるように支援している。夜間の安眠に繋がるように、日中は散歩等の活動を織り交ぜながら、支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が、どのような内容の薬を内服しているのか、全職員がいつでもすぐに、利用者台帳で確認出来るようにしている。現在の症状と、内服状況の変化について、常に観察を行い、状況に応じて看護師、主治医と相談し連携を図っている。		

外部評価結果(グループホーム「ホットファミリーやすらぎ」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に、本人の楽しみや、趣味、生きがいについて、本人や家族から聞き取りを行い、日々の暮らしの中に取り入れ、力の発揮や、楽しみに繋げている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて花見、菜の花畑、バラ園等に外出をしたり、近隣のお宅の藤の花見に出掛けたり、保育園、中学校と交流。個人ボランティアの方が月に1度コカリナ演奏に来てくださる。一方では、外出、外食、買い物等、地域に行く機会を作っている。	広い敷地内の日常的散歩、事業所周辺のりんご等の果樹園の散策、花見(菜の花・バラ・藤)、さくらんぼ・ぶどう狩り、観光地等の外出など、戸外で気分転換や五感の刺激を得られるよう支援している。中学校の運動会や音楽会は、見学だけでなく、利用者が参加する場面もあり、より一層外出が楽しめる機会となっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者は、買い物、喫茶、お賽銭等、個々の希望に応じて施行。自己管理不十分な利用者に対しては、買い物時、お財布を本人に渡し、職員が見守りを行い買い物を楽めるように援助。購入後は、トラブル回避の為、お金を預かるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望時は、いつでも電話が掛けられる。また、掛かってきた電話もすぐに本人にお繋ぎしている。利用者の中には、家族から定期的に手紙が届き楽しみにしているため、こちらからも手紙を出すなど支援を行い、家族との繋がりを大切にしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、利用者の要望により、小まめに電気を消している。照明は、間接照明を使用。心地よく、落ち着ける場としている。壁飾りは、季節感を取り入れ、利用者と職員が共同で作品を作っている。トイレは薄暗く、電気を使わない利用者が居るため、足元センサーを使用している。	居間兼食堂・台所・廊下は一体のフロアとなっており、無駄のない広さであり、掃き出し窓や天窓からの採光も良く、間接照明を有効に使用して、慣れ親しんだ家庭と同じ雰囲気を醸し出していた。壁には利用者と共に作った干支や季節を味わえる貼り絵が飾られ、利用者がめくるのを楽しみにしている日めくりのカレンダーもあった。利用者と職員で作った落ち着いた空間が広がっていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が、気軽に会話ができるように、テーブル席の配置等、気配りを行い穏やかに過ごせるよう配慮している。		

外部評価結果(グループホーム「ホットファミリーやすらぎ」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用していた、馴染みのある物を、持ち込んで頂いている。寝具類も自宅で生活をしていたままの物を持ち込まれているため、ベッドの方や、布団の方など様々であり、個々の状況に応じて支援している。	事業所で設けた物は引き戸式の収納戸棚だけで、それ以外の物は利用者ご家族で馴染みの物を自由に持ち込んで、思い思いの部屋作りをしていた。ベッドの部屋、布団の部屋、収納戸棚の有効利用による広々とした部屋、タンスやテレビ、写真など馴染んだ物に囲まれた部屋など、個性的で居心地よく過ごせる部屋となっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること」「出来そうなこと」をアセスメントし、持てる力を最大限に発揮し、出来る限り自立した生活を過ごせるように支援している。		